

学園の今を伝える立正大学学園新聞

RISSHO UNIVERSITY NEWS

P2 公開講座
P3 立正人
世界14座を制した初の日本人

P11 輝く人
P16 CIRCLE 2026
児童文化研究部

Vol. 164
Spring 2026



「モラリスト × エキスパート」を育む。

 立正大学学園

立正大学 品川キャンパス 〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
立正大学 熊谷キャンパス 〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700
立正大学附属立正中学校・高等学校 〒143-8557 東京都大田区西馬込1-5-1

Website

学園新聞Web版はこちらから

立正大学マガジン



公開講座

- ① 立正大学公開講座 経済学部創設75周年企画『日本経済2025/2026』
- ② 立正大学公開講座『石橋湛山を現代に問う』
- ③ 立正大学オープンアカデミー「ブランド価値をつくるソニーのサウンドデザイン」

1 日本経済の課題と構造不況の出口を探る 「失われた30年」からの脱却シナリオ

本学経済学部・経済研究所の企画により、昨年11月12日、公開講座「日本経済2025/2026」が開催されました。本講座は、日本経済の現状と将来展望について多角的に考察することを目的に実施され、学内外から多くの参加者が集まりました。

当日は、元本学学長で東京大学名誉教授の吉川 洋先生を講師に迎え、北村 行伸学長および村田 啓子経済学部教授とのディスカッションを交えながら講座が進められました。基調講演では、日本経済は緩やかな回復傾向にあるものの、世界的なインフレの影響により家計消費が伸び悩んでいる現状が指摘されました。また、賃金上昇が物価上昇に追いついていない状況や、実質賃金の低下が個人消費に与える影響についても言及がありました。

さらに、人口減少や少子高齢化の進展、財政赤字の問題など中長期的な課題にも触れ、日本経済が持続的に成長していくためには、生産性向上や構造改革の推進が不可欠であるとの見解が示されました。講座後半のディスカッションでは、これらの課題に対する具体的な方向性について活発な議論が行われ、参加者にとって理解を深める貴重な機会となりました。



【開催概要】

日時：2025年11月12日18:00～19:50(17:30開場)

会場：立正大学 品川キャンパス ロータスホール

主催：立正大学(後援:品川区)

参加費：無料

定員：220名

当日の講演の様子は、
右記リンクより
ご視聴いただけます。



2 「言論の力」で“真実”を貫く 湛山に見るリーダーかくあるべし論



2月13日、公開講座『石橋湛山を現代に問う』が開催され、前内閣総理大臣の石破 茂氏による基調講演と、北村 行伸学長との対談が行われました。

講演では、石橋湛山が『東洋経済新報』の記者時代に発表した「戦争をして領土を広げても国は豊かにならない」という「小日本主義」を挙げ、戦前の軍部や世論の反発を恐れず、「非戦」を訴えた湛山の姿勢を紹介。同調圧力が強い現代において、耳の痛い“真実”でも勇気を持って語るリーダーシップの重要性が説かれました。対談では、自己の利益を捨てて公に尽くす使命感など、湛山の「言論の力」は混迷する現代を生き抜く糧になると紹介されました。

【プログラム】

・基調講演「石橋湛山の思想と現代」

石破 茂(前内閣総理大臣・衆議院議員)

1957年2月4日生まれ、鳥取県八頭郡出身。慶應義塾大学法学部卒業後、三井銀行勤務を経て政界入り。86年に衆議院議員初当選以来、14期連続当選。防衛庁長官、防衛大臣、農林水産大臣、内閣府特命担当大臣などを歴任し、安全保障政策に精通。2024年10月から第102・103代内閣総理大臣を務め、日本の地方創生や国家戦略に注力。自民党総裁、幹事長、政務調査会長も歴任し、党内で重要な役割を果たす。自由主義的な視点を重視し、戦前に「小日本主義」を提唱した第55代総理大臣石橋湛山の理念にも共感を示し、平和外交や民主主義の重要性を唱える。近著に『私はこう考える』(新潮社 2024年)、『異論正論』(新潮社 2022年)など

・対談「信じる力と問い続ける力 — 湛山イズムに学ぶ人材育成」

石破 茂氏

北村 行伸(立正大学学長)

【開催概要】

日時：2月13日18:00開演(17:00開場)

会場：立正大学 品川キャンパス 石橋湛山記念講堂

参加費：無料(事前申込制)

3 産学連携を超えた地域の学びの場 「立正大学オープンアカデミー」“開講”



本学では、このほど大学や企業、地域をつなぎ交流を活性化させる新たな取り組みとして「立正大学オープンアカデミー」を開講します。

第1回はソニーグループの第一線で活躍する技術者やデザイナーを招き、「サウンドデザイン」の最前線に迫ります。ユーザー体験(UX)を深め、製品への愛着やブランド価値を創出する“音”の役割について学びを深めます。

【開催概要】

日時：3月5日15:00～17:00

会場：(対面)品川キャンパス ロータスホール、(オンライン)Zoomウェビナー

参加費：無料(事前申込制)

定員：対面200名、オンライン300名

協力・後援：ソニーグループ株式会社、品川区 ほか

【プログラム】

・第1部(15:00～)

基調講演「感性を動かすテクノロジー：ソニーのイノベーションとGenerative Sound Design」

登壇者：永原 潤一氏、藤本 吉秀氏、高橋 慧氏、小林 有毅氏(ソニーグループ)

・第2部(16:05～)

パネルディスカッション「ソニーのサウンドデザインが生む価値」

パネラー：永原 潤一氏、北村 行伸(立正大学学長)、佐藤 一義(立正大学名誉教授)

進行：松村 誠一郎氏(東京工科大学デザイン学部・研究科教授)

・第3部(16:45～)

aibo・poiq体験会 ※対面参加者のみ

活躍する校友/

立正人

RISSHO BITO

登山家・立正大学客員教授

たけ うち ひろ たか
竹内 洋岳先生

登山家。2012年、日本人で初めて8000m峰14座完全登頂を達成。立正大学仏教学部卒業、立正大学客員教授。株式会社ハニーコミュニケーションズ所属。



©ハニーコミュニケーションズ

日本人初 標高8000m超の「14座」頂上に立つ

今回は、本学仏教学部をご卒業され、現在は本学客員教授を務めながら、今なお世界の未踏峰への挑戦を続けている登山家、竹内洋岳先生にお話を伺いました。

8000m峰14座



©ハニーコミュニケーションズ

「デスゾーン」と呼ばれる標高8000mは、空気と気圧が平地の約3分の1しかない生物の生存限界を超えた世界です。地球上に標高8000mを超える山は14あり、私たちは敬意と畏怖を込めてそれらを「14座」と呼びます。

かつて14座が未踏峰であった時代には、列強と呼ばれた国々が威信をかけて初登頂を競いました。しかし時代は変わり、今は世界中の登山家が自らの誇りと生命をかけて目指す目標になったのです。

私は2012年、14座すべての頂上に立った最初の日本人になりました。立正大学在学中に初めて8000m峰登山を経験してから21年の歳月が流れていました。多くの登山家はその途中で断念し、あるいは命を落としていく中で登り続けられた理由は、人との出会い、そして命を預け合える仲間存在に尽きます。

地球上の「点」にもならないような、山の頂上を目指して、世界中から国籍、年齢、人種、宗教、文化を超えて人が集まるのが14座の頂上なのです。学生時代の挑戦は多くの先

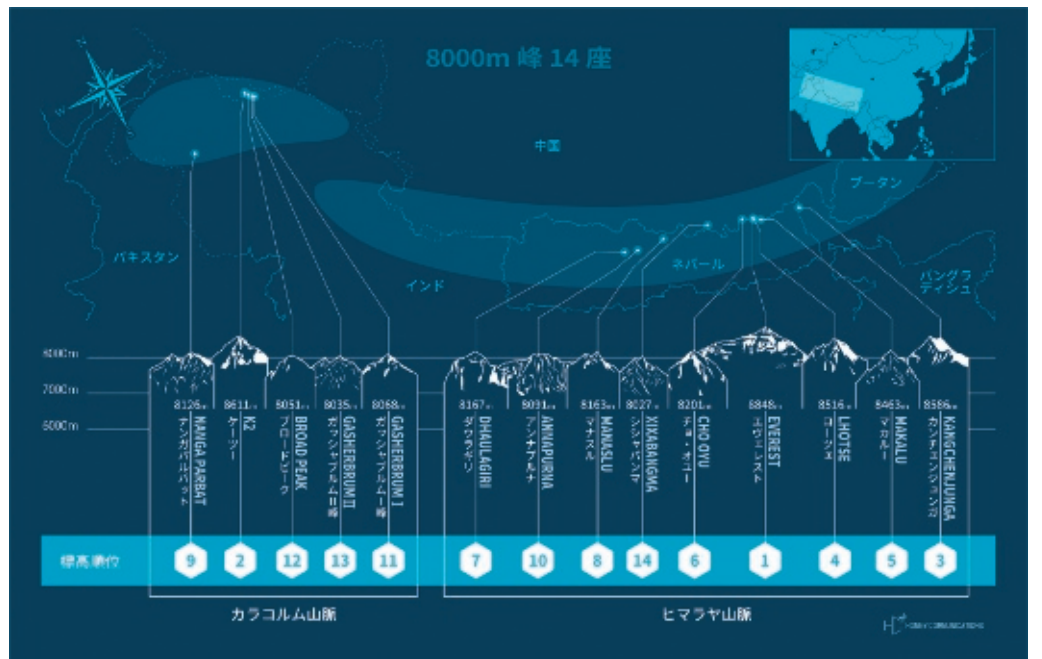
輩との出会いを生み、私を鍛え、海外でかけがえのないパートナーと巡り合う礎となりました。快適で安全な場所から一歩踏み出し、自ら空気が薄く危険な山に踏み込むことで自分を成長させ、仲間とともに14座達成することができたのです。

山は、自ら困難に踏み込むことで志を同じくする仲間に出会えることを教えてくれました。その一歩を踏み出す意味やきっかけは、なんでも良いと思っています。自分から踏み出す人もいれば、誰かに背中を押されることもあるでしょう。新しい世界を求めて踏み出すこともあれば、今いる場所から離れたくて踏み出すこともあるかもしれません。一歩を踏み出し続けることで、自分にとっての頂上が見え、新たな出会いが生まれます。

面倒な授業は待てば時間が過ぎますし、電車やバスは迎えに来てくれますが、山頂は頂上の一歩手前で立ち止まってしまったら、その一歩分さえも頂上から近づいて来て

くれることはありません。どんなにゆっくりでも、ときには息を整えるために立ち止まったとしても、歩みを止めず進むことが必要です。

立正大学から踏み出した私も、今なお次の頂上を目指して歩き続けています。いつか同じ頂上を目指す後輩のみなさんと出会えることを願っています。



©ハニーコミュニケーションズ

日本・ネパール国交樹立70周年

今年、日本とネパールが国交を樹立して70周年にあたります。8000m峰14座のうち、8座の頂上がネパールに位置しており、その一つである世界第8位の高峰マナスルは、70年前に日本隊によって初登頂されました。

日本によるマナスル初登頂は、両国の国交樹立と同年に達成されており、マナスル登山隊長の横有恒が当時のマヘンドラ国王へ登頂報告と謝意を伝えたことを契機に、それまで国交のなかった両国は、初登頂の祝福と記念の意味を込めて国交を樹立しました。戦争や紛争、貿易などの利害関係ではなく、登山という文化的営みをきっかけに結ばれた国交は、世界史的にも稀有な平和的關係として知られています。

しかし、両国の交流はさらに以前にさかのぼります。それは、立正大学で研究が進められている僧侶・河口慧海です。1899年(明治32年)に、日本人として初めてネパールへ入りました。その後、彼は当時のネパール首相チャンドラ・シャムシェル・ラナに書簡を送り、国際発展のために留学生派遣を提言しました。この提案を受け、ネパール初の国費留学

生8名が日本へ渡り、これが両国の本格的な人的交流の始まりとなりました。

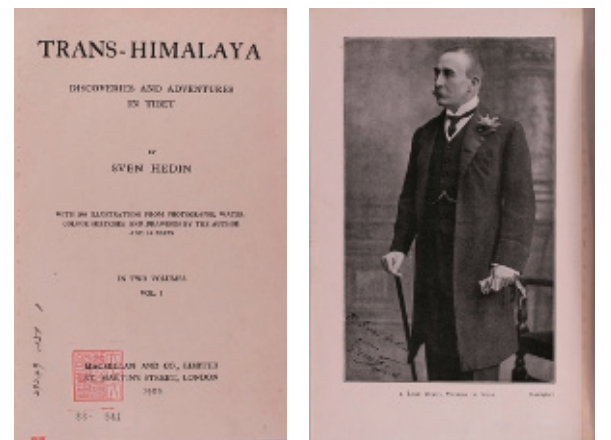
立正大学には河口慧海に関する文献資料が数多く収蔵されており、その中にはスウェーデンの探検家スヴェン・ヘディンが慧海に贈った著書「トランス・ヒマラヤ」も含まれています。この資料は宗教者としてだけでなく、探検家としての慧海像を示す貴重なものです。私自身、この資料の再発見に立会い、母校にこのような歴史的資料が存在することを卒業生として誇りに感じています。

さらに立正大学は、ネパールの仏教遺跡ティラウラコットにおいて永年発掘調査を継続しており、その成果は「日本の立正大学による発掘」と国内外で高く評価されています。こうした学術・研究活動を通じて、立正大学はネパールとの



交流を深めてきました。

私はその卒業生であり登山家として、日本とネパール、そして立正大学を結びつける一本のロープの結び目のような存在でありたいと考えています。



立正大学古書資料館所蔵 TRANS-HIMALAYA

令和7年度 立正大学学園・立正大学表彰式・授与式

2月26日に、令和7年度立正大学学園・立正大学表彰式・授与式および課外活動顕彰を開催しました。この表彰式は、学生・教職員・卒業生などが一堂に会し、互いの素晴らしい成果をたたえ合う場として、昨年度に引き続き、合同で開催されました。

今年度受賞された各賞をご紹介します(順不同)。



名誉教授称号

名誉教授称号は本学専任教員として多年貢献し、学徳すぐれた先生へ授与する称号です。

令和7年10月1日付にて1名、令和8年4月1日付にて9名の先生方に称号が授与されました。

【令和7年10月1日付 名誉教授称号授与者】

所属学部	教員名
文学部	島村 幸一

【令和8年4月1日付 名誉教授称号授与者】

所属学部	教員名
文学部	齊藤 昇
文学部	デンドウ ゲーリー
法学部	鈴木 隆史
法学部	早川 誠
法学部	山口 道昭
法学部	山下 学
社会福祉学部	村尾 泰弘
地球環境科学部	後藤 真太郎
地球環境科学部	安原 正也

蘊奥賞

蘊奥賞は日蓮宗からの研究奨励金をもとに、学術研究を究め、本学の教育研究の活性化に寄与した方や、研究成果の社会的還元によって本学の社会的評価を高めることに貢献した方を表彰しており、本賞・奨励賞・褒賞の3種類があります。

今年度は、2名の先生方に授与されました。

受賞名	所属学部	教員名
蘊奥奨励賞	仏教学部	本間 俊文
蘊奥褒賞	社会福祉学部	新井 利民

ベスト・クラス賞

ベスト・クラス賞は、本学の学部生が回答する授業アンケートの集計結果において、原則として、受講者の満足度が高く、特別に高いポイントを獲得した授業科目を選出し、選出された科目を担当する先生を表彰しています。

今年度は、第1期・第2期、計4科目が選出されました。

開講期	開設学部	所属学科等	科目名	担当教員
第1期	社会福祉学部	子ども教育福祉学科	保育内容の理解と方法 [言語表現]B	神林 哲平
	キャリアサポートセンター	非常勤講師	キャリア開発基礎講座ⅢD	木村 了子
第2期	心理学部	臨床心理学科	心理学実験ⅡB(臨)	福井 晴那
	教育開発センター	非常勤講師	キャリア・デザイン入門H	坪田 まり子

第16回モラリス賞

受賞者

NES ラボステーション

代表：石井 紬稀 茂木 紗弥 法学部法学科4年

〈活動内容・受賞理由〉

当団体は「Z世代が考える!『未来の食と農』教育プロジェクト」を実施しました。本プロジェクトは、環境に配慮した持続可能な食料生産と食育の推進を目指し、学生主体で多角的な教育プログラム開発を行っております。ワークショップやイベントを通じて、食の重要性や農業が抱える課題を社会に問いかけ、次世代への普及啓発に貢献しました。「みどり戦略学生チャレンジ」関東ブロック大会で関東農政局長賞、「第9回 食育活動表彰・教育等関係者の部」で消費・安全局長賞を受賞したことから、今回の受賞となりました。

特別賞

受賞者

内田 宏哲さん (データサイエンス学部2025年度卒)

〈受賞理由〉

内田さんは、2025年7月29日に埼玉県熊谷市で発生した住宅火災において、建物内に取り残されていた高齢女性を救助しました。危険が及ぶ状況の中、ためらうことなく現場へ駆け付け、住宅内に入り無事に救出しました。

この勇気ある行動は、立正大学が掲げる「『モラリスト×エキスパート』を育む。」の理念を体現するものであり、すべての学生の模範となるものです。よって、その功績をたたえ、特別賞が授与されました。

特集

令和7年度 課外活動顕彰について

本学では、課外活動で優秀な成績を収めた団体や個人のみならず、課外活動を通じて社会貢献をされた方、長年にわたって課外活動を指導・育成された方々の功績を顕彰しています。

令和7年度は、9つの課外活動団体、23名の学生、7名の教員の方々に決定いたしました。受賞者は令和7年度立正大学学園・立正大学表彰式・授与式(本紙P4掲載)にて表彰されました。

令和7年度 課外活動顕彰一覧

〈団体部門〉

顕彰種類	団体名	主たる顕彰理由
最優秀賞	拳法部	第1回全日本学生拳法新人戦大会において、優勝。第36回日本拳法東日本総合団体選手権大会 東日本大学新人戦において、3位入賞。
優秀賞	射撃部	2025年度全日本学生スポーツ射撃選手権大会において、男女団体ともに出場。
奨励賞	剣道部	第71回関東学生剣道新人戦大会において、男子団体が出場し、ベスト16進出。第70回全日本仏教系大学剣道大会において、男子団体が出場し、3位入賞。第58回埼玉学生剣道優勝大会において、男子団体が出場し、3位入賞。第51回関東女子学生剣道優勝大会において、女子団体が出場。
奨励賞	準硬式野球部	東都大学準硬式野球連盟 令和7年度秋季リーグ戦において4部優勝、3部昇格。

〈個人部門〉

顕彰種類	団体・個人名	主たる顕彰理由
最優秀賞	柔道部 菊池 和久さん(2025年度卒)	2025年度全日本学生柔道体重別選手権男子90kg級に出場し、ベスト16進出。
優秀賞	水泳部 落合 颯士さん(2年)	第101回日本学生選手権水泳競技大会に、男子50m自由形で出場。
優秀賞	拳法部 柴田 周さん(3年)	第36回日本拳法東日本総合団体選手権大会に出場し、敢闘賞を受賞。
優秀賞	排球部 浅岡 大温さん(2025年度卒) なかしま だいき 中嶋 大貴さん(2025年度卒)	ビーチバレーボールNEXT2025 JVA第7回全日本ビーチバレーボールU-23選抜優勝大会 創部以来初の決勝トーナメント出場。アクティオ杯ビーチバレージャパンカレッジ 第37回全日本ビーチバレー選手権大会 決勝トーナメント出場。
優秀賞	射撃部 庄司 悠汰さん(2025年度卒)	2025年全日本学生スポーツ射撃選手権大会に、10mエアライフル立射60発競技で出場。
優秀賞	射撃部 齊藤 孝貴さん(2025年度卒)	2025年全日本学生スポーツ射撃選手権大会に、10mエアライフル立射60発競技で出場。
優秀賞	射撃部 菅沼 友菜さん(2025年度卒)	2025年全日本学生スポーツ射撃選手権大会に、10mエアライフル立射60発競技で出場。
優秀賞	射撃部 福光 悠衣さん(2025年度卒)	2025年全日本学生スポーツ射撃選手権大会に、10mエアライフル立射60発競技で出場。
優秀賞	射撃部 鈴木 敬斗さん(4年)	2025年全日本学生スポーツ射撃選手権大会に、10mエアライフル立射60発競技で出場。
優秀賞	射撃部 大島 佳月さん(3年)	2025年全日本学生スポーツ射撃選手権大会に、10mエアライフル立射60発競技で出場。
奨励賞	剣道部 鷹巣 紗里奈さん(2025年度卒)	第57回関東女子学生剣道選手権大会出場。

〈顧問・副顧問部門〉

顕彰種類	部署・個人名	主たる顕彰理由
感謝状 記念品	仏教学部 教授 高橋 堯英	『剣道部』を永年にわたり顧問として指導した。
感謝状 記念品	法学部 教授 鈴木 隆史	『吹奏楽部』などを永年にわたり顧問として指導した。
感謝状 記念品	法学部 教授 早川 誠	『空手部』『吹奏楽部』などを永年にわたり顧問として指導した。
感謝状 記念品	法学部 教授 山口 道昭	『バドミントン部』『拳法部』を永年にわたり顧問として指導した。



団体部門で最優秀賞を受賞した拳法部

顕彰種類	団体名	主たる顕彰理由
敢闘賞	吹奏楽部	令和7年度東京都大学吹奏楽コンクールに出場し、銀賞を受賞。
敢闘賞	弓道部	第72期東京都学生弓道連盟男子リーグ戦IV部優勝。
敢闘賞	立正大学 クライミングサークル にゃんぼ	第12回日本学生対校選手権大会において、女子団体が出場し、準優勝。
敢闘賞	学生団体つむつむ	被災地支援活動の企画・実施、地域イベントへの積極的な参加など防災啓発に貢献した。
特別賞	りすちゃん	学生主体となって企画・運営を行い、熊谷市内の企業であるFMクマガヤ出演など、熊谷市内の企業連携を深め、大学のPR活動とともに、地域連携活動に貢献した。

顕彰種類	団体・個人名	主たる顕彰理由
奨励賞	剣道部 鈴木 陽さん(4年)	第70回全日本仏教系大学剣道大会個人3位。第58回埼玉学生剣道優勝大会個人準優勝。
奨励賞	剣道部 石井 海都さん(3年)	第71回関東学生剣道選手権大会出場。第58回埼玉学生剣道優勝大会敢闘賞受賞。
奨励賞	剣道部 戸田 皇聖さん(2年)	第71回関東学生剣道選手権大会出場。第53回埼玉学生剣道新人戦大会敢闘賞受賞。
奨励賞	剣道部 大島 吾太さん(2年)	第53回埼玉学生剣道新人戦大会個人3位。
奨励賞	剣道部 福島 愛梨さん(2年)	第51回埼玉女子学生剣道新人大会個人3位。第21回埼玉女子学生剣道優勝大会敢闘賞受賞。
敢闘賞	柔道部 湊 学也さん(4年)	2025年度全日本学生柔道優勝大会出場(東京学生柔道連盟選抜)。
敢闘賞	柔道部 泉 一翔さん(2年)	令和7年度品川区秋季区民柔道大会に出場し、優勝および品川区長賞受賞。東京都24地区品川区代表として選出。
敢闘賞	スキндаイビング部 松尾 思勇さん(2年)	令和7年関東学生潜水連盟フリッパー競技会に出場し、男子100m準優勝、新人男子50m第3位。
特別賞	法学部 大谷 陸斗さん(2025年度卒)	ビーチサッカー日本代表に選出。第20回全日本ビーチサッカー大会(18歳以上対象)準優勝。
特別賞	文学部 兎澤 友紀さん(2年)	2025年度全国大学ビブリオバトルにおいて、最高賞であるグランドチャンプ本賞受賞。
特別賞	社会福祉学部 末廣 和奏さん(2年)	第46回北信越国民スポーツ大会ラグビーフットボール競技にて富山県代表として選出。

顕彰種類	部署・個人名	主たる顕彰理由
感謝状 記念品	社会福祉学部 教授 村尾 泰弘	『女子軟式野球愛好会=COSMOS=』を永年にわたり顧問として指導した。
感謝状 記念品	地球環境科学部 教授 後藤 真太郎	『スキндаイビング部』などを永年にわたり顧問として指導した。
感謝状 記念品	心理学部 教授 小澤 康司	『ユースホステルクラブ』を永年にわたり顧問として指導した。

学部あれこれ

立正大学各学部から届いたレポートです！

経済学部

1年生を対象にキャリア合同セミナーを実施

経済学部では、学生のキャリア形成・就職活動支援に力を入れるとともに、主体的な進路選択を重視した教育を行っています。

近年の就職活動の早期化を踏まえ、本学部では1年生向け必修科目「学修の基礎Ⅱ」の中で、毎年1月頃にキャリア合同セミナーを実施しています。今年は、まず外部講師をお招きし、今後の学生生活を送るうえで知っておくべき就職活動のポイントについてご講演いただきました。続いて、就職内定者を含む学部の3・4年生が登壇し、自身の体験に基づいて就職活動の実際や準備の進め方などを紹介しました。その後、1年生とのトークセッションを行い、具体的な疑問や不安について直接対話する機会を設けました。セミナー終了後、1年生は感想を提出し、「学修の基礎Ⅱ」担当教員

が内容を確認することで、振り返りと学びの定着を図っています。

経済学部では、2年前から「自分のやりたいが、きっと見つかる」をキーワードに掲げてきましたが、2027年度からはさらなる飛躍を目指し、「プログラム制」を導入する予定です。1年次に経済学の基礎をしっかりと学んだうえで、2年次からは①経済データサイエンスプログラム、②金融・簿記会計プログラム、③グローバル・スタディーズプログラムの3つのプログラムから、自らの関心や適性に応じて科目を履修します。所定の科目を履修すると履修終了証が発行され、複数のプログラムの修了も可能です。

経済学部は、学生一人ひとりの「やりたい」を具体的な力へとつなげる学びを、これからも進めていきます。

今後の展開にどうぞご期待ください。



「キャリア合同セミナー」講演風景

心理学部

地域との協働による学習「サービラーニング」が10年を迎えました

「サービラーニング」は、教育活動の一環として一定の期間、地域のニーズなどを踏まえた社会奉仕活動を体験することによって、それまで知識として学んできたことを実際のサービス体験に生かし、また実際のサービス体験から自分の学問的取り組みや進路について新たな視野を得る教育プログラムです。

文部科学省が示す「社会に開かれた教育課程」は地域との協働による教育・学習をより重視するものであり、「サービラーニング」はこの教育施策における重要なアプローチといえます。

心理学部臨床心理学科は、「サービラーニング」授業としてNPO法人「しながわチャイルドライン」と「受け手・サポーター養成研修」を協働開催し、今年で10年を迎えました。この養成研修では、子ども権利条

約や子どもたちを取り巻くさまざまな社会課題を学びます。実習では、電話の受け手として話を聴く技能や態度を学びます。養成研修終了後、「しながわチャイルドライン」の電話相談に参加することができ、多くの学生が相談活動に参加しています。この電話相談を通じて実際の子どもたちを支援する体験や、地域・社会（多世代交流）の中で学び育つ経験は、学生たちの主体性や市民意識を醸成することにつながっています。

また、一緒に参加した社会人にとっても若い世代との交流は貴重な体験となっています。「しながわチャイルドライン」は全国41都道府県にある70の実施団体の一つですが、大学と協働する取り組みは、相談員の高齢化が進行する中、次世代につながる道を開く可能性があり、注目されています。



「サービラーニング」授業風景

地球環境科学部

立正大学地理学教室 創設100周年記念シンポジウム・記念地図展を開催しました！

歴史ある「立正の地理」の伝統を生かし、日本の地理学教育・研究の発展に大きく貢献してきた立正大学地理学科は、2025年で創設100周年を迎えました。この節目の年を記念し、2025年度から2026年度にかけて創設100周年記念事業が開催されています。

その一環として、2025年12月に品川キャンパスロータスギャラリー、ロータスホールにおいて記念シンポジウムと記念地図展が実施されました。記念地図展は「地図で見る江戸・東京」をテーマに実施され、多くの来場者でにぎわいました。展示では、正井泰夫名誉教授による貴重な地図コレクションの一部が公開され、歴史的・学術的価値の高い資料を通して地理学の歩みと地図の魅力を再発見する機会となりました。

12月13日には「地理学教育の現在地」をテーマに

記念シンポジウムが開催されました。最初に、国土舘大学 長谷川 均名誉教授が「地理学教育の現在・過去・未来」と題して基調講演を行い、地理学教育の歩みとこれからの方向性についてユーモアを交えて示唆に富むお話をしてくださいました。その後、首都圏に所在し地理学教育を行う複数の大学から研究者が登壇し、それぞれの大学での教育・研究の取り組みや特色について報告が行われました。立正大学地理学科からは、山田淳一准教授が登壇し報告を行いました。各講演に続いて行われたディスカッションでは、「地理学科だからこそできることは何か」「変容する現代社会における地理学教育の役割・意義とは何か」などの話題を中心に参加者も含め活発な議論が交わされ、地理学の可能性と教育のありかたについて改めて考える貴重な時

間を共有しました。

100年の歩みを振り返りつつ、次の100年に向けて新たな一歩を踏み出した立正大学地理学科。これからも「地理学を学ぶことの意味」を社会へ発信し続けていきます。



記念シンポジウム終了後の記念写真



みんなのゼミ自慢

フィールドワークから社会へ、 食と農の未来を考える

にし たに ひさ のり
西谷 尚徳 先生
(法学部)



記事: **大内 星奈さん**(法学部3年) 埼玉県立浦和北高校出身
伊東 千咲さん(法学部3年) 千葉県立市原八幡高校出身



さまざまな場所を訪れて学ぶフィールドワーク

私たち社会学・教育学ゼミナール(西谷ゼミ)は、社会や教育に関するさまざまな問いについて、関係する現場を訪れ自らの目で理解し、その学びを品川区の小学生への授業や、農林水産省や東京都が主催するイベントの場で発信する活動を行っています。

西谷ゼミには4年生16名、3年生16名、2年生14名の、総勢46名が在籍しています。普段の活動は主に学年ごとで行っていますが、春と夏に行われるゼミ合宿は全学年参加することができます。座学でも得難い刺激や気づきがたくさんある西谷ゼミですが、一番のイベントはこのゼミ合

宿です。全学年の学生が参加するので、ゼミ生同士や西谷先生との親睦を深めることができます。合宿中には、西谷先生の美味しい手料理を食べることもできます!

西谷ゼミの特徴は、合宿先で行われるフィールドワークにあります。さまざまな場所を訪れるフィールドワークでは、企業や農業の現場で働いている方々から直接お話を伺うことで、数字や制度の背後にある実態に触れることができ、これまで当然のように認識していたことを見直す機会になります。また、現場に赴くことで抽象的に捉えていた社会課題を具体的に理解することができ、その課題を“自分ごと”として考える視点が培われます。訪問先で現場の方の生の声を聞き、社会課題をより身近で現実的なものとして捉え直す経験ができることが、西谷ゼミならではの学びだと思います。

そして、西谷ゼミでは、小学生への授業や公的機関が主催するイベントへの参加といった、フィールドワークで得た研究成果を学外の方へ発信する「アウトリーチ活動」も行っています。アウトリーチ活動では、主に「食育」や「食と農」に関する発表を行っています。多くの人に食と農につ

いて関心を持ってもらうことで、持続可能な食と農の実現に向かうことを目指しています。

農林水産省が主催する表彰制度「食と農をつなぐアワード2025」では、私たち西谷ゼミの活動が、「食料システム」の理解促進、持続可能な食料供給に向けた主体的な取り組みとして認められ、活動認定証をいただくことができました!

座学による学びにとどめず、フィールドワークを通じて学ぶことで社会とつながって考えられることが、西谷ゼミの魅力です。これからも私たちは、現場での学びと学外への発信を大切に、活動を続けていきたいと思ひます。



ゼミ生が企画や授業計画を行う小学生への授業

国際交流センター



Come and join us! 異文化交流体験が 未来を切り拓く!



国際交流センターでは、グローバル化する社会で活躍できる人材の育成を目指し、国内外における留学・研修プログラムやキャンパス内での国際交流、語学力向上支援を行っています。

1 学内から世界へー国際交流が広がった4年間 ー「迷ったらやる!」で挑んだ海外留学ー



「さまざまな国際交流に挑戦し続けた、充実した4年間でした!」
一笑顔でそう語るのは、2025年度データサイエンス学部卒業生の荒井乃愛さん。
在学中に、ピア・サポート活動や海外留学プログラムに取り組みました。

1:ピア・サポート活動で広がった国際交流の輪

「留学生を支えたい!」という気持ちで応募し、ピア・サポーターとして3年間活動しました。週1回の定期セッションや交流イベントを通して、主体性や協調性が身につきました。学部や学年を超えたつながりが生まれ、世界に友人ができたことも大きな魅力です。以前留学していた短期留学生とは、今でも連絡を取り合っています。

この活動では国際交流やチームビルディングに詳しい先生方や職員さんによる事前・事後研修があります。また、頼れる先輩サポーターの存在や、いつでも国際交流センターへ相談できる環境が整っているため、安心して取り組むことができました。

2:海外インターンシップで得た挑戦と成長

2年次の春休みに、国際交流センターのプログラムでカンボジアを訪れました。そこで取り組んだ「サムライカレブプロジェクト」は、海外でゼロから市場調査やヒアリング、試食会などを行い、現地の屋台で商品を販売しながら設定された目標金額達成に向けて行動するというビジネス体験ができる実践的なプログラムです。

他大学の学生と協力し、掲げた目標を達成するためにゼロから価値を創造するという体験は、このプログラムだからこそ得られた貴重な学びでした。異文化の中で自ら行動したことが、大きな自信につながりました。



3:先輩から新入生・在学生へのメッセージ

「迷ったらやる!」ー私はこの精神を大切にしています。挑戦した先には「新たな出会い」や「素晴らしい経験」があり、それらが次の成長やさらなる挑戦へとつながっていくからです。大学には学生を支援するさまざまな制度があります。ぜひ一歩踏み出して、チャレンジしてください!

2 英語スピーチコンテスト 出場者募集のお知らせ

国際交流センターでは、本年度7回目となる英語スピーチコンテストを開催します。

本コンテストは、学生のグローバルな視野を育み、英語コミュニケーション能力の向上を図ることを目的としています。

上位入賞者には、豪華賞品を用意していますので、ぜひチャレンジしてください!

◆開催日時・会場

- 2026年11月下旬～12月上旬 ※詳細は後日お知らせします。
- 立正大学熊谷キャンパス
- 募集要項等は、ポータルサイトのキャビネットから6月上旬よりダウンロード可能です。
HOME > Myツール > キャビネット > 5. 留学支援 > 6. 英語スピーチコンテスト > 1. 募集要項・申込書





Oshiete! Sensei
Q

先生に聞

ながい ひろと
永井 裕人

所属: 地球環境科学部地理学科
研究分野: 地理空間情報科学、雪氷学

Profile

2014-2018 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 研究員
2018-2023 早稲田大学教育学部 講師
2023-2026 立正大学地球環境科学部 特任准教授
2026- 現職

趣味 / フライトシミュレーター、航空祭、作曲、おしゃれな文具の探索
旅客機(エアバスA320NX)のバッテリー立ち上げから、飛行計画を入力し、実際の気象状況を再現し、航空管制に従って計器飛行するのが夜の息抜きです。

休日の過ごし方 / ひたすら娘の「パパかまって～」に笑顔で応える。
近所の大田区立萩公園はプールがあるほか、かき氷やビールも楽しめて素晴らしいです。

好きなスポーツ / レッドブル・エアレース
2019年に千葉の幕張でも開催された飲料メーカー主催のエアレース。日本開催が当面なくなって残念です。

好きな街 / 音楽の都、ウィーンです。
欧州地球科学連合という国際学会の開催地であり、世界最高レベルのオペラやミュージカルを堪能できます。

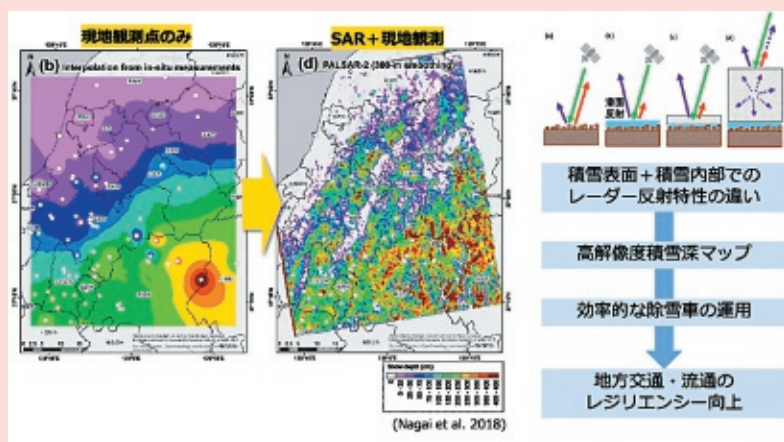
尊敬する人物 / 西堀栄三郎
日本の第一次南極観測隊の越冬隊長を務めた探検家。「とにかくやってみなはれ。」が座右の銘です。



「自分で問いを立てる力」を養い、
人と協働する姿勢を大切に

Q1
どんな研究をしているの？

私は、人工衛星などの地球観測データを用いて、氷河や積雪の変化、自然災害の被害状況を解析する研究を行っています。特に、ヒマラヤ山脈の氷河を対象に、表面温度や熱の流れを観測し、氷の融解メカニズムを明らかにすることに取り組んでいます。また、観測データを音に変換する「ソニフィケーション」にも挑戦し、科学データを新しい方法で社会に伝える試みも進めています。自然環境の変化を定量的に捉えると同時に、科学者だけでなく芸術家もアクセスできる世界を目指しています。



Q2
その研究を始めようと思ったきっかけは？

きっかけは、大学時代に衛星画像を初めて解析したときの驚きでした。遠く離れた地域の氷河の分布や状態が、宇宙からのデータによって可視化されることに強い魅力を感じました。JAXAでは2016年に発生した熊本地震など大規模災害で重要な判断を助ける防災利用の最前線におり、観測と解析を通じて社会に貢献したいと考えようになりました。また地球観測の結果をより多くの人に届けたいという思いから、データを音に変える表現にも関心を持ち、科学と社会をつなぐ研究へと発展していきました。

Q3
学生には4年間でどのようなことを学んでほしい？

学生のみなさんには、知識や技術だけでなく、「自分で問いを立てる力」を身につけてほしいと考えています。いま社会は、少子高齢化、AIの急速な発展、地球環境問題の深刻化といった大きなパラダイムシフトの中にあります。正解があらかじめ用意された時代から、変化の中で自ら問いを設計し、根拠をもって判断する時代へと移行しています。そのため、調査やデータ解析を通じて現象を自分の目と手で確かめる経験が重要です。そして、得られた結果を論理的に整理し、他者にわかりやすく伝える力も不可欠です。専門性を磨くと同時に、多様な分野や人と協働できる姿勢を養うことが、これからの社会をいきる基盤になると考えています。



まつ お ただ なお 松尾 忠直

所属：データサイエンス学部
データサイエンス学科
研究分野：ドローン利活用、地理データサイエンス

Profile

立正大学大学院地球環境科学研究科地理空間システム学専攻で博士(地理学)を取得、立正大学地球環境科学部地理学科助教、特任講師を経て立正大学データサイエンス学部講師として2021年に着任、2026年より准教授。ドローンを活用した景観の記録(3次元計測)、土地利用調査、安全な調査方法などを研究している。2023年度より強化クラブサッカー部長、2026年度より研究推進・社会連携センター副センター長。

趣味/AI壁打ち、思考の整理、AIを活用してアプリ開発に挑戦すること、G系ラーメンに挑戦し完食すること

休日の過ごし方/サッカー観戦(家族と立正大学サッカー部を応援する)
食材の買い出し、冷蔵庫の残り物を使った料理

好きなスポーツ/サッカー(立正大学サッカー部、サッカー部OBの在籍するチームが中心)

空の産業革命をリードする人材を育成する 「ドローンアカデミー」で広がる新しい学びとキャリア

2025年にスタートした 「立正大学ドローンアカデミー」とは?

立正大学は2025年度より、国土交通省に認められた無人航空機操縦士の登録講習機関「立正大学ドローンアカデミー」を開設しました。本アカデミーを受講し修了審査に合格すると、国家資格の一等または二等無人航空機操縦士(マルチローター)の実技試験が免除されます。学外で学科試験および身体検査(自動車の運転免許がある場合は書類審査のみ)に合格することで国家資格を取得できます。



本学では2024年以降に地球環境科学部の青木和昭先生とデータサイエンス学部の松尾が一等無人航空機操縦士の国家資格を取得し、登録講習機関の要件を整えるための準備を進めました。2025年度からアカデミーがスタートし、熊谷キャンパスの地球環境科学部・データサイエンス学部の学生を対象に「ドローン講義」と「ドローン実習」を開講しています。2025年度夏期休暇中のサマーセッションに「ドローン実習」を受講した学生のうち15名が国家資格の「二等無人航空機操縦士」を取得しました。

地球環境科学部やデータサイエンス学部では、単なる国家資格取得にとどまらず、操縦技術やルールに加え、各学部の教育・研究に関する利活用、卒業後のビジネスなどでの活用方法を学ぶ2学部連携のプログラムを2026年度入学生からスタートさせます。

さらに、この2学部以外の学部生はドローンの国家資格取得のための全学教育プログラム「RIS plus プログラム(リスプラスプログラム)」を2026年度入学生から各学部で定められた履修年次に受講できるようになります。広大な熊谷キャンパスを活用した特色ある実践的な全学教育プログラムとして、他大学にはない取り組みとなります。

2026年2月に導入された 「シミュレーター」の効果は?

本学では2026年2月、ドローン操縦練習用シミュレーター(日本無線株式会社「SKY COACH X」)を4機導入しました。大学としての導入は全国初となります。高性能なパソコンやコントローラーを用い、仮想空間で実機と同様の操縦体験や練習ができるシステムです。

シミュレーターは墜落などの危険がないため、初学者でも安心して操縦練習を始めることができます。仮想空間で基礎的な操作を学んだ後に実機へ移行することで、授業中の事故防止や学生の操縦技術の向上が期待されます。また、飛行場所の確保や天候の影響を受けないため、時間や環境を気にせず練習できる点も特長です。仮想空間であることからドローン体験への心理的なハードルも下がり、オープンキャンパスや各種イベントにも活用できます。国家資格取得を目指すドローンスクールでもシミュレーターの導入事例はまだ少なく、本学では充実した環境を整えることができました。

シミュレーターを使うと強風や突風など実機では再現が難しい条件での飛行や、危険な操縦を行った際の機体の挙動も安全に体験することが可能です。エアラインパイロットの訓練でもシミュレーターは一般的に活用されており、ドローン操縦においても実践的な技術習得や実技試験の合格率向上の効果が期待されます。



資格取得後の進路や、 今後の社会との かわりとは?

今後、社会におけるドローンの活用が広がることで、国家資格である無人航空機操縦士の資格保有者の活躍の場も拡大し、卒業後の進路として新たな業界や職種への可能性が広がることを期待しています。

本学では2025年度より在学生を対象とした国家資格取得プログラムを開始しましたが、今後は在学生だけではなく卒業生を中心とした社会人のリスキリングにも取り組むことを検討しています。さらに、教職員や大学キャンパスが所在する品川区・熊谷市など連携自治体や企業の方々にも受講いただき、本学が地域におけるドローン利活用の拠点となることを目指しています。このような取り組みを通じ、教育・研究に基づいたドローンの社会実装を進め、さまざまな分野でその可能性を広げていきたいと考えています。

01 やすらぎと慈しみを求めて

2026年2月11日、石橋湛山記念講堂にてシンポジウム「やすらぎと慈しみを求めて 瞑想の効果検証と未来への応用」が開催されました。本イベントは、未来社会の課題解決を目指す国の研究計画「ムーンショット事業」の一環として行われ、東洋の人間観と脳の研究から心のやすらぎを探る取り組みが紹介されました。仏教学部・菫輪顕量教授を中心に、仏教班が進めてきた瞑想研究やアプリ開発の報告に加え、現代で広く実践されるマインドフルネスとも通じる瞑想の歴史と科学的効果が、わかりやすく示されました。ディスカッションでは「瞑想のヒミツー脳の働きから解明できるかー」をテーマに、得られた知見をどのように社会へ広げることが話し合われ、誰もが心の安らぎを得られる未来へ向けて、研究と社会発信を進めていく姿勢が示されました。



02 春華堂スタディツアー 最終発表会 (WAクリエイティブピッチ) 実施報告

※立正大学では、地域連携と実践的な学びの一環としてスタディツアー※を実施しています。本プログラムは、地方企業の現場を訪問し、実社会に触れる体験を通じて、学生が「社会の選択肢」を知り、キャリア形成への気づきを得ることを目的としています。

今年度の立正大学のスタディツアーには、学部を超えて16名の学生が参加しました。新年度より教員とともに事前打ち合わせやフィールドワークの準備を重ね、9月には他大学の学生との合同合宿を実施。「食」「メディア」「モビリティ」「音楽」「学び」をテーマにチームを編成し、企業の参加社員との意見交換を重ねながら、課題解決に向けた企画提案を行いました。

本スタディツアーは、「首都圏の学生が浜松を訪問し、地方企業を学ぶ」ことを目的とした2泊3日のプログラムで、立教大学、立命館大学とともに3大学合同で実施しました。企業訪問やフィールドワークを通じて、地域や企業が抱える課題に向き合い、「課題発見×企画開発」に取り組みました。

浜松は、楽器・二輪・自動車メーカーが集積する「ものづくり都市」として知られる一方、豊かな自然と食文化、文化的背景を併せ持つ地域です。今回のプログラムには、春華堂、スズキ株式会社、ローランド株式会社、静岡新聞社、静岡放送などが参加し、学生にとって実りの多い学びの機会となりました。

※スタディツアー：学生が地域や企業を訪問し、実社会の課題に触れながら学ぶ実践型教育プログラム。



なお、春華堂スタディツアーは、立正大学が参加した9月10日～12日の3大学合同プログラムのほか、青山学院大学による大学カリキュラム型プログラム(9月～10月実施)、法政大学による天竜の山間地域を中心としたプログラム(10月10日～12日実施)も行われました。

2026年1月22日には、これら3つのスタディツアーに参加した計4大学が合同で、春華堂スタディツアー最終発表会(WAクリエイティブピッチ)を青山学院大学にて開催しました。

当日は、地域企業や行政関係者、大学教員の前で、遠州地域の課題解決に向けた提案を発表しました。立正大学を含む4大学の学生が8チームに分かれ、「食」「メディア」「モビリティ」「音楽」「学び」など多様なテーマで成果を共有し、地域と大学が連携した実践的な学びの成果を発信する機会となりました。

【お問い合わせ先】
立正大学研究推進・社会貢献課(品川担当)
電話：03-3492-8152
メールアドレス：skenkyu@ris.ac.jp

03 立正オープンカレッジ



熊谷キャンパスでは、一般の方向けに毎年前期(6月中旬～7月中旬)と後期(10月中旬～11月下旬)の土曜日に、総合大学としての特色を生かし全9学部の多彩な講師陣による講義を実施しています。学術的な視点から地域のニーズに応え、「地域」を「知域」へと広げる未来づくりに取り組んでいます。

2025年度も、時代に即した多様なテーマの講義を展開し、受講生のみなさまから好評を得ました。

～2025年度 講演テーマ～

※講師の職位は講演当時のもの

- 第1回 『こころの健康と予防的アプローチ』
講師：安田 みどり(心理学部講師)
- 第2回 『“暑さ”を科学する～体感温度と都市のくらしの関係』
講師：中村 祐輔(地球環境科学部助教)
- 第3回 『「令和の米騒動」から観る日本の農業・食料問題』
講師：北原 克宣(経済学部教授)
- 第4回 『寺院史料が伝える日本仏教の歴史』
講師：本間 俊文(仏教学部准教授)
- 第5回 『老いと社会参加ー楽しみとしての武術修行ー』
講師：田陽 和久(文学部教授)
- 第6回 『あえて、埼玉の地から、海運税制等を考える』
講師：山下 学(法学部教授)
- 第7回 『介護保険のいまとこれから～制度創設に関わった立場から～』
講師：西村 淳(社会福祉学部教授)
- 第8回 『会計学のメガネで世の中をみよう』
講師：町田 遼太(経営学部講師)
- 第9回 『インターネット上の誹謗中傷問題は、なぜ解決するのが難しいのか?』
講師：南部 あゆみ(データサイエンス学部准教授)

～2026年度前期立正オープンカレッジについて～

開催時期・講演テーマ・申込方法などの詳細は、決定次第、研究推進・社会貢献センターホームページでお知らせします。ご希望の方は、5月中旬頃に当センターホームページ内の「お知らせ」をご覧ください。下記お問い合わせ先までご連絡ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

【お問い合わせ先】
立正大学研究推進・社会貢献課(熊谷担当)
立正オープンカレッジ係
電話：048-536-6019

2部優勝、1部復帰を果たした野球部

2026年1月22日、熊谷キャンパスにおいて「東都大学野球秋季2部リーグ優勝および1部リーグ復帰」の報告会が開催されました。当日は、北村行伸学長と野球部員による座談会もあわせて行われました。報告会には野球部4年生8名が出席し、リーグ優勝に至るまでの歩みや、この4年間の部活動生活について語りました。会場では、日々の努力や仲間との絆、困難を乗り越えた経験などが率直に語られ、活発で充実した時間となりました。

—まずは2部優勝1部復帰への気持ちをお聞かせください。

率直にうれしいです。やっと明治神宮野球場に帰ってこることができました。後輩たちや大学、応援してくださったすべてのみなさまに良い形を残して卒業できることを、とても嬉しく思います。

—2部優勝前には、3部降格をかけた入替え戦も経験されました。原動力は何でしたか

最下位が決まってからも主将の齋藤が中心となってチームをまとめ、ひたむきに努力を続けてきました。そんな中で、部員全員が「主将を勝たせたい」「一緒に1部へ行きたい」という思いで団結できたことが大きかったと思います。

—大学や学生、教職員や卒業生などの応援をどう受け止めていましたか

熊谷キャンパスだけでなく、品川キャンパスの学生・教職員からも多くの応援をいただきました。周囲の支えがあったからこそ、何不自由なく戦っていたことに感謝しています。入替え戦では大学が神宮行きのバスを手配してくださるなど、恵まれた環境で活動できていることを実感し、それが勝利につながった一因だと感じています。

—大学生生活を振り返ってみて印象に残っていることはありますか

野球漬けの日々だったので、振り返ってもまず野球が浮かびます。ただ、卒業を控え(※1月22日取材のため)社会人野球の練習に参加した際に、立正大学の練習環境や設備の充実を改めて実感しました。この仲間たちと野球ができた時間は、かけがえない財産です。



—みなさんにとって「仲間」とはどんな存在ですか

4年間で多くの困難もありましたが、寮生活の中で朝から晩まで行動をともにし、苦楽を分かち合ってきました。「仲間」を超えた家族のような存在でありながら、互いに刺激し合い高め合う関係でもあります。野球部の仲間は、頑張ろうと思える「パワーの源」でした。

—最後に読者へメッセージ

いつも野球部への温かい応援をありがとうございます。1部復帰を果たすことができました。私たちの代は神宮球場でプレーすることはできませんでしたが、後輩たちがきっと活躍してくれると思います。これからも変わらぬ応援をよろしくお願いいたします。

硬式野球部



勇気ある人命救助で感謝状を授与

夜空を焦がす炎の中で、とっさの判断と行動により尊い命が救われました。2025年7月29日、火災現場で近隣に住む高齢女性を救助した内田さん。その勇気ある行動が評価され、熊谷警察署より感謝状が授与されました。今回は、立正大学で学ぶ(※1月29日取材のため)内田さんに、学生生活や当時の状況についてお話を伺いました。

—立正大学の志望理由と現在の専攻を選んだ理由

もともとプログラミングやAIに興味がありました。新設学部ができること担任の先生から聞いたことがきっかけです。学びたい先生がいたことも理由の一つです。

—入学してから、考え方や価値観の変化はありましたか

大学では学部や学年、育った環境が異なる多様な人と関わるため、高校生の時と比べ、相手の価値観を尊重する姿勢が身についたと感じています。

—火事が起きた際、最初にどのような状況を目にしましたか

火が屋根から燃え広がり、夜にもかかわらず外が明るい状況でした。最初は現実感がありませんでしたが、親が消防署に電話する姿を見て現実味が増し、家の中に人が居ないか確認しに行こうと行動しました。

—行動に移すまでに、迷いや不安はありましたか

特にありませんでした。人命救助を優先すべきだと考え、横で火の手が上がっていましたが、玄関から入ると判断し、即座に行動しました。自分でも冷静に行動できたと感じています。高校時代は山岳部に所属しており、日々危険と隣り合わせの中で行動していたため、その環境で培った「冷静さ」が生かされたのではないかと思います。

—もし同じような状況にもう一度出くわしたら、どのような行動をとりますか

迷わず人命救助に向かうと思います。同じ状況で困っている人がいれば、行動に移すと思います。



—この出来事は、その後の生活や考え方にどのような影響を与えましたか

火の怖さを改めて実感し、扱いにはより注意するようになりました。また、どんな状況でも冷静に判断することの大切さを学びました。今まで以上に「当たり前の日常」を大切にしようと考えようになりました。

—今回の出来事を通して、感じたことや読者に伝えたいことはありますか

火事での人命救助が必ずしも「正解」だとは思っていません。自分なりに冷静に判断し、助けられると考えたため行動しました。今回に限らず、いかに周りを見ることができ、ひとつの事に捉われず状況を判断できるかが大切だと思います。まずはみなさんも多角的に物事を考えてみると、今後新しい発見があるかもしれません。

うちだ ひろあき
内田 宏哲さん
(データサイエンス学部2025年卒業)





RISSHO JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL

立正大学附属立正中学校・高等学校

職業講話開催される



パイロットの山下さんの講話



前列左から、長谷川さん、伊藤さん、松尾さん、大山さん
後列左から、小林さん、瀬島さん、澤田さん、山下さん、小山さん

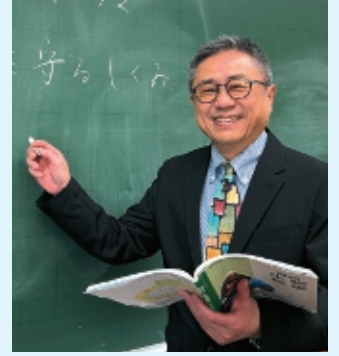
2026年2月5日に中学1年生を対象に、職業講話が行われました。キャリア教育の一環として本校卒業生を講師にお招きし、さまざまな職種の講話を聴いて将来の職業観を育む取り組みです。

今回は瀬島建志さん(キャンプ用品の販売員)、澤田政秀さん(環境保護業務・野生動物の生態調査)、小山由人さん(警察官)、長谷川朝子さん(看護師)、伊藤若菜さん(航空整備業務)、松尾麻凜さん(テレビなどの広告・番組制作)、大山真代さん(キャビンアテンダント)、山下翼さん(パイロット)、小林寛正さん(飲食店経営)の9名にお越しいただきました。

先輩方は、職業選択に至るまでの動機、卒業してから実際に現在の仕事に就くまでの苦労や楽しみなど、質問形式を交えながらわかりやすく話してくださいました。「自分が選んだ仕事にはどんな困難があっても、その目標に向かって進めば乗り越えられないことはなく、立正で過ごした学校生活がその礎になっていることは間違いない」と熱い口調で話していました。生徒たちは中学3年生になると、3日間さまざまな仕事先に出向いて、職業体験をします。その前段階として、今回の職業講話が有意義に生かされると感じました。

先生の素顔

たかやなぎ ひろし
高柳 浩嗣先生(理科)



北里大学にて化学を専攻し、研究室では特に東洋医学(漢方薬)について研究いたしました。卒業後は、複数の中学校・高等学校において理科を担当してきました。

立正では非常勤講師を経て専任教諭となり、現在は中学3年生の担任を務めています。

部活動では、大学4年間を弓道部で過ごし、卒業後は大学生のコーチとして指導に携わってまいりました。その経験を生かし、本校でも弓道部顧問として生徒たちの指導に当たっております。現在、弓道部は中高合わせて約80名が在籍する、校内でも有数の規模を誇る部活動となっています。

また、鍼灸師の国家資格を取得しており、鍼灸師として治療・施術にも携わっています。

これまでの経験を踏まえ、生徒たちには人間の身体の仕組みを正しく理解し、日頃から健康に留意して生活してほしいと願っております。そして、人とのつながりや思いやりを大切にできる人間へと成長してくれることを心から期待しています。



RISSHO UNIVERSITY SHONAN HIGH SCHOOL

立正大学淞南高等学校

eスポーツ部NASEF Farmcraft® 2025で世界7位入賞



本校eスポーツ部チーム「SHONAN GEEK JAM」が、マイクラフトを活用した国際的な教育eスポーツ大会「NASEF Farmcraft® 2025」のシニア部門において、世界7位という快挙を成し遂げました。「NASEF Farmcraft®」は、世界中の8歳から18歳までを対象とした、科学に基づいた農業eスポーツイベントです。2025年度大会には、世界15カ国から延べ約1,700人が参加しました。今回のチームは、3年生のリーダーを中心に1年生が加わった、学年を超えた編成でミッションに挑みました。活動の過程では、英語で書かれた指示書や解説動画の解析に苦戦し、何度も壁にぶつかりました。シミュレーションが思い通りに進まず、挫折しそうな場面もありましたが、メンバー同士で知恵を出し合い、最後まで諦めずに課題を提出しました。その結果、目標としていた「完走」を大きく上回る「世界7位」という素晴らしい驚きを手にすることができました。

新任教員紹介

やまもと ゆういちろう
山本 雄一郎先生
(国語科・地理歴史科・
硬式野球部コーチ)



昨年度より着任いたしました山本雄一郎と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

国語科および地理歴史科を担当し、硬式野球部のコーチ、ならびに翔球寮の舎監を務めております。

大学4年間を三重県伊勢市で過ごし、昨年度よりここ島根県にまいりました。伊勢神宮を擁する三重県から、出雲大社を擁する島根県へのご縁をいただきましたことに、何かに導かれたような思いを抱きながら、日々を過ごしております。このご縁を大変光栄に感じております。

立正大淞南のため、そして生徒の成長のために、日々精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

▼立正大淞南の情報をチェック



妙法蓮華経玄義 卷第五

〔(隋)智顛撰〕 弘安6(1283)年刊 188.43/G 34

本書は、『妙法蓮華経玄義』巻5のみが残る零本ですが、古く貴重な版本です。本書の巻末には、「弘安六年六月日書訖／執筆阿闍梨了覺／法印権大僧都忠源」との記載があります。これは、比叡山延暦寺で刊行された叡山版『法華三大部』中の『法華玄義』に見られる特徴の一つです。『法華三大部』とは、中国の天台大師智顛(538-597)の著作である『法華玄義』『法華文句』『摩訶止観』を指します。比叡山では、同山の僧である承詮しょうせんの発願により、弘安2(1279)年から永仁4(1296)年にかけて三大部やその注釈書などが刊行されました。これらは最初期の叡山版として知られており、三大部30帖を含む80帖が大東急記念文庫に所蔵されています。

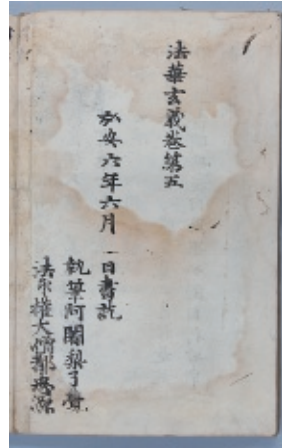
大東急記念文庫本の数え方に「帖」を用いるのは、冊子本でなく粘葉装であるためです。粘葉装は、紙を二つに折って折り目側を糊付けした装訂(製本法)で、冊でなく帖と数えます。本書の装訂も粘葉装で、紙には厚手の鳥の子紙が使われています。表紙は、刊行当時の香色表紙(原表紙)の上から茶色の紙を覆って貼り付けていたと推定されますが、この覆表紙は外れてしまっています。原表紙の左端には「法華玄義巻第五 覚□(判読不能)」の墨書きがあり、なぞり書きや文字の摩耗が確認できます。また、覆表紙の左側には「玄五 真祐」という墨書きが見られます。「玄五」は『法華玄義』の巻5を表したもので、「覚□」や「真祐」は旧蔵者でしょう。

この原表紙と覆表紙の特徴は、国立国会図書館が所蔵する叡山版『法華玄義』巻2の特徴と一致します。国会図書館本の原表紙には「法華玄義巻第二 覚玄」という古い墨書きが、覆表紙には「玄二 真祐」の墨書きが見られるとされています。国会図書館本も巻2の1帖のみであるため、真祐の手を離れた後にバラバラになってしまったと推定されます。

なお本書は、昭和35(1960)年に、著名な古書店として知られた弘文荘より

購入したものです。同書店の目録である『弘文荘待買古書目』33号(1959年3月)には売り出し時の情報が掲載されています。

本書は、2026年3月17日から4月25日に本学で行われる第54回企画展「知を刻む 印刷の歴史と書物のかたち」の展示資料の一つです。ご興味のある方は展示会場までぜひお越しください。



▲巻末



▲左:原表紙 右:覆表紙

参考文献

『大東急記念文庫貴重書解題 第2巻 佛書之部』(大東急記念文庫 1956)
高橋智「妙法蓮華経玄義巻2の解題・抄録」(<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/2532098>)、2022年2月作成、2026年2月3日確認

文書館だより

明治時代の修学旅行

修学旅行の始まりは、1886(明治19)年に東京師範学校(現在の筑波大学)が実施した、宿泊を伴う「長途遠足」と言われています。当初は軍事訓練の意味もありましたが、明治20～30年代には鉄道等の発達とともに、修学旅行の学術・教育的な要素が高まってきました。

1908(明治41)年10月28日から11月1日に、本学の前身である日蓮宗大学では、日蓮聖人ゆかりの地である身延山への修学旅行を行っています。同年発行の同窓会報である『大崎学報』(第9輯)に「修学旅行祖山参拝記」(以下、参拝記)として詳細な報告が掲載されています。参加者は教員・学生合わせて約200名。主な行程は次のとおりです。

28日 汽車にて大崎より新宿・八王子を経て甲府へ、遠光寺・信立寺泊

29日 軽便鉄道にて青柳へ、青柳昌福寺・小室山妙法寺を参拝、

富士川渡船場にて記念撮影、下山上澤寺・杉山円教寺を参拝、身延山着

30日 身延山参拝

31日 大石山正慶寺・延寿山妙浄寺・應供山聴法寺を参拝、長遠山本成寺泊

1日 岩本山実相寺を参拝、汽車にて岩淵より品川へ、帰校

また参拝記には、行く先々で現地の寺院や信徒より、心のこもった歓待を受けたことが記されています。「小室山妙法寺に趣く(中略)山主及び部内寺院諸師の心こめたる午餐の膳に列なり鼓腹踊躍す」「寺院信徒の厚遇により富士川渡船場の河原に校旗を中心として記念撮影をなす」「應供山聴法寺に着し



富士川渡船場記念撮影

学長から聴法寺へ宛てた
昼食の依頼書

堂前の読経例の如く部内寺院の寄贈に係る中食の供養に預かり境内にニヶ所の大篝火を設け一同其周囲に円陣を画く猛焰雨雲の空をこがし全隊蘇生の思あり」。そして聴法寺には学長より中食(昼食)の準備を依頼する文書が送られており、その文書が本学に残されています。

これらの交流は、日蓮宗大学の修学旅行ならではのものであり、身延山参拝とともに、学生たちにとって心に残る体験となったのでした。

サッカー部

リーグ優勝・1部昇格達成のため
チーム一丸となって戦う年に

昨シーズン、サッカー部は上位チームとの対戦で勝ち切る力を発揮できず、目標としていた関東1部リーグ復帰は果たせず、リーグ戦は7位という結果に終わりました。目標には届かなかったものの、8年連続となるプロサッカー選手の輩出(2025シーズンは2名)という大きな成果も生まれ、厳しいシーズンの中にも確かな成長と手応えを残す一年となりました。これは、学生たちが日々の練習で互いを高め合い、妥協のない取り組みを積み重ねてきた証でもあります。

そして迎える2026シーズンは、関東大学サッカーリーグ100回大会が開催される記念すべき年です。歴史的なシーズンに「1部復帰」を必ず成し遂げるべく、チームを牽引する主将には西脇虎太郎(4年・DF)が就任し、以下のように所信表明しました。「日頃より、立正大学体育会サッカー部への温かいご支援とご声援を賜り、心より感謝申し上げます。昨年、サッカー部は強化指定50周年という大きな節目を迎えました。長い歴史の中で築かれてきた伝統、そして先輩方や関係者のみなさまの想いがあるからこそ、私たちは今サッカーに打ち込むことができている。今シーズン、私たちは「2部リーグ優勝、そして1部リーグ昇格」という明確な目標を掲げています。主将としてチームの先頭に立ち、この目標を必ず達成する覚悟で日々の活動に取り組んでいます。ピッチ内外で仲間と真摯に向き合い、チーム一丸となって戦い抜くことを大切にしていきたいと考えています。粘り強く、ひたむきなサッカーを体現し、応援して下さるみなさまに結果で恩返しできるよう、全力を尽くします。今シーズンも、立正大学体育会サッカー部への熱いご声援をよろしくお願いいたします」と熱い決意を語ってくれました。また、副将には野田徹生(4年・MF)、伊藤聡太(4年・FW)、原壮志(3年・MF)の3名が就任し、主務は北川礁が担当します。支えてくださるすべての方々への感謝を胸に、チームは一丸となって節目のシーズンに全力で挑みます。みなさまの変わらぬご声援をよろしくお願いいたします。



(左から)北川・原・西脇・野田・伊藤

サッカー部の
情報をチェック!

ラグビー部男子

今シーズンも「立正ラグビー」で
全力チャレンジ

ラグビー部男子は、昨シーズン「大学選手権出場」を目標に掲げ、日々の練習に真摯に取り組んでまいりました。その結果、関東リーグ戦1部で5位となり、大学選手権への出場は叶いませんでしたが、シーズンを通して多くのご声援を賜り、心より御礼申し上げます。

昨シーズンでは、新たに野口ヘッドコーチを迎え、チームとしての結束力を高めながら戦ってまいりました。特にリーグ終盤の最終3試合では見事3連勝を果たし、過去最高成績タイとなる「関東リーグ戦1部5位」でシーズンを終えることができました。この結果、来シーズンは創部以来初となる「5季連続1部リーグでの戦い」が決定しております。

また、本校からリーグワン選手として馬越涼(リーグワンDiv.3/ヤクルトレビズ戸田)、ハインリッヒ・フルクス(リーグワンDiv.1/静岡ブルーレヴズ)の2名を輩出したほか、ヴィリケサ・リモリモ(データサイエンス学部・受賞当時3年)がベストフィフティーンに選出されるなど、明るい話題も数多くありました。さらに、多くの下級生が公式戦に出場し、チームの将来に大きな可能性を感じさせるシーズンとなりました。

新チーム始動後は、フィジカル強化と基本スキルの徹底に重点を置き、チーム全体の底上げを図りながら、心身両面の強化に取り組んできました。4月からは春季交流大会が開幕し、帝京大学や慶應義塾大学など、大学選手権常連校と対戦できる貴重な機会となります。自分たちの

現在地を確認し、チャレンジャーとして有意義な経験を積み、大学選手権へとつなげていきたいと考えております。

今シーズンも、キックと守備を重視した「立正ラグビー」を貫き、目標である「大学選手権初出場」を目指して全力で戦ってまいります。引き続き、温かいご声援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



グラウンドでのフィットネストレーニングに励む選手たち



週5日のウエイトトレーニングで心身をともに鍛える選手

ラグビー部女子

ラグ
新入

立正大学ラグビー部女子は、この春10名の新入生を迎えました。世代別日本代表経験者をはじめ、国内屈指の強豪校から選手が入学し、チームの競技力向上に大きな追い風となっています。経験豊富な選手と新戦力が融合し、これまで以上に厚みのある布陣が整いました。

チームは現在、女子7人制ラグビー大会の国内最高峰である「太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ」4大会に向けて日々活動をしています。昨季は大学カテゴリーの大会「大学女子セブンズ」で、準優勝という悔しい結果で、今年こそ頂点をつかむべく、日々の練習に力を注いでいます。

今年特に注目していただきたいのは、山田晴楽選手(社会福祉学部4年)です。山田選手は世界を舞台とする「セブ

2025年リーグ戦1部 結果

VS東海大学	3-50●	VS流通経済大学	31-38●	VS大東文化大学	24-35●
VS東洋大学	16-26●	VS法政大学	33-31○	VS日本大学	26-22○
VS関東学院大学	20-10○				

クラブ等情報

硬式野球部

1部優勝、日本一に向けて

キャプテンに就任した丸山幹太(データサイエンス学部4年)率いる新体制で1月10日より今年度の練習を開始いたしました。丸山は、3年次の春季リーグ戦で初出場を果たしてから、秋季入替え戦まですべての試合でメンバー入りをし、堅実なプレーでチームに貢献してきました。何事に対しても最後までやりきる姿勢やどのような状況においても冷静に判断できる力があり、指導者、選手からの信頼が厚い存在です。日本一を達成するために今後チームをどのように引っ張っていくのか、その手腕に期待が寄せられています。

丸山キャプテンにリーグ戦に向けての抱負を語ってもらいました。「昨シーズンはみなさまの温かいご声援が私たちにとって大きな力となり、悲願の1部昇格を果たすことができました。心より感謝申し上げます。今シーズンから私たちは、『日本一』に挑戦できる舞台に立つことができます。常に高いレベルを求め、日々の練習に全力で取り組んでいます。日本一に向けて、互いに心から信頼し合える関係性を築き、周囲の方々から応援されるチームを作り上げていきたいと考えていますので、今後とも、硬式野球部への変わらぬご支援・ご声援をよろしくお願いいたします」

注目選手

新エース候補の仁田陽翔(データサイエンス学部3年)と主軸を担う三好元気(同3年)は、2人とも大学日本代表候補に選出されるなど、今季の活躍とタイトル受賞への期待が高まります。

また、今年度は、24名の新生が入部しました。全国高等学校野球選手権大会(甲子園)出場の強豪校から数多くの選手が入部し、中でも高校日本代表に選出された横山悠(同1年)や昨年の高校生ドラフト候補に名を連ねた高田庵冬(同1年)に注目が集まります。



仁田選手



三好選手

リーグ戦予定

4月7日、8日	神宮球場	第3試合	VS東洋大学
4月14日、15日	神宮球場	第1試合	VS國學院大学
4月21日、22日	神宮球場	第2試合	VS青山学院大学
5月5日、6日	神宮球場	第1試合	VS中央大学
5月19日、20日	神宮球場	第1試合	VS亜細亜大学

ビー部女子、10名の生迎え新シーズンへ



「NZワールドシリーズ」に昨年度出場し、日本代表として堂々の3位入賞を果たしました。この経験は、チーム全体にとっても大きな財産となっており、山田選手自身も「大学最後の年、仲間とともに結果を残したい」と意気込みを語っています。

新入生の加入により、練習環境にも新たな刺激が生まれています。先輩選手たちは、競技面だけでなく大学生活の面でもサポートを惜みず、チーム全体で新入生を迎え入れています。学び合いと支え合いが、立正大学ラグビー部女子の強さの源となっています。

4月から始まるシリーズ戦は、チームにとって大きな挑戦となります。

陸上競技部 駅伝部門

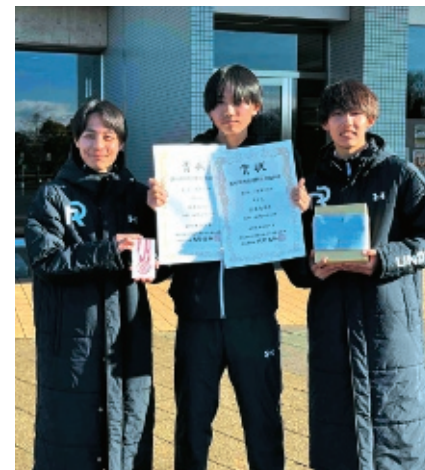
地元熊谷での大会で シーズンの好スタート

2026年初めての公式戦は、2月1日に行われた第93回埼玉県駅伝競走大会でした。本学からは2チームが出場し、結果は以下のとおりとなりました。

立正大学Aチーム 3位
1区 橋本(データサイエンス学部3年)、2区 知念(同2年)、3区 梅原(同1年)、4区 宇都宮(同2年)、5区 高田(同1年)、6区 落合(同2年)

立正大学Bチーム 5位
1区 デイビッド(同3年)、2区 森(同1年)、3区 相川(同1年)、4区 大川(同1年)、5区 津金(同1年)、6区 和多(同1年)

拠点とする熊谷で開催された本大会において両チームとも入賞ことができ、駅伝部としてよいスタートを切ることができました。



新入部員情報

また、今年度は以下9名の選手(全員データサイエンス学部所属)が駅伝部に入部し、すでに2月頃から練習に参加している選手もあり、今後の活躍が期待されます。

うちだ ゆうと 内田 悠斗(本庄第一高校)	なかばやし じゅんた 中林 純大(本庄高校)	むらた はるき 村田 晴輝(武蔵越生高校)
くまがい しゅんた 熊谷 駿汰(佐久長聖高校)	まえだ たくや 前田 拓哉(札幌山の手高校)	やまかわ たいき 山川 大輝(東海大山形高校)
たいら けんしろう 平 謙将(東海大山形高校)	まつもと けいた 松本 敬太(大阪興国高校)	やまもと たくま 山本 拓磨(札幌山の手高校)

新キャプテン・抱負

新キャプテンとして知念優斗(2年)が選ばれました。

～本人一言～

「一人一人の競技力を向上させ、箱根駅伝予選会で20番台を目指します」

知念キャプテンは、これまでの実績に加え、広い視野と冷静な判断力を兼ね備えた選手です。周囲への気配りもできる存在として、背中と結果で後輩たちを牽引していくことが期待されます。



＼ 学生生活を充実させよう！ ＼

立正大学サークル情報

CIRCLE 2026

本学には100以上の
さまざまな課外活動団体が活動しています。
今回は、「児童文化研究部」を紹介します。

CIRCLE INFO

児童文化研究部

創部100年を超えて子どもたちと同じ目線で、楽しさを届け続ける

児童文化研究部は、大学近隣の幼稚園や保育園を訪問し、人形劇やパネルシアター、工作ワークショップなどを通して、子どもたちとの交流をしてきた、創立1912年の団体です。コロナ禍により部員激減、存続の危機を経験しましたが、現在は品川キャンパス5名、熊谷キャンパス3名で活動しています。

部が大切にしているのは、「子どもたちを楽しませること」、そしてそのために「自分たちが楽しむこと」です。子どもたちは大人の様子をよく見ています。自分たちが楽しむことで、その空気が伝わり、子どもたちの笑顔にもつながるといいます。活動の中で意識しているのは、常に子どもと同じ目線に立つこと。会話をするときはしゃがんで目線を合わせ、「ビーズ」を「キラキラ」、「綿」を「ふわふわ」と言い換えるなど、言葉も子どもに寄り添った表現を心がけています。

実際に園へ足を運び、子どもたちと直接関わる経験ができることは、この部ならではの魅力です。活動を重ねる度に、人前で表現する力やコミュニケーション力

が自然と培われます。少人数だからこそ意見を出しやすく、それぞれの個性を生かした活動ができるのも強みです。

何より印象に残っているのは、企画を楽しんでくれた子どもたちのキラキラした笑顔です。子どもたちは正直なので「楽しかった！また来てね!」という言葉に、自分たちの存在意義を実感し、大きなやりがいを感じるといいます。

一方で、昨年の大学祭から再始動した部(※熊谷キャンパスのみ)ということもあり、OBの応援に支えられつつも、学内での認知度向上や、先輩からの引継ぎがない中での活動には苦労もあります。それでも部員同士で学び合いながら、一つひとつ積み重ねています。

子どもたちに楽しさを届け続けたい!もっと人形制作をして、楽器演奏もしたい!児童文化研究部は、新しい仲間を探しています。まずは見学や体験から、一緒に楽しく活動しませんか?部室でお待ちしています!

写真は、「部を一言で表すと?」という問いに、「仁」(思いやりや親しみ)と答えてくれた品川キャンパス所属の部員のみなさんです。周りの部員や子どもたちに思いやりをもって接しているからだ、笑顔で話してくれました。



学生安否確認システム登録のお願い

本学では、自然災害や地震発生時に、在籍する学生の安全確保を目的とし、緊急連絡ならびに安否確認の手段としてセコムトラストシステムズが運営する「セコム安否確認サービス(e-革新)」を導入しています。

パソコンでの登録やその他詳細については、
『ポータルサイト>Myツール>キャビネット>3. 学生生活支援>
6. 安否確認システム内の各種資料』を参照してください。

企業コード:01013(半角)
ユーザーID:学籍番号(英字は大文字)
パスワード:生年月日の下4ケタ(月日)(例)4月1日 → 0401



お問い合わせ 品川学生生活課 電話:03-3492-6698 / 熊谷学生生活課 電話:048-536-6012



お知らせ

～2026年4月立正大学図書館は
開館100周年を迎えます～

これを記念して、開館100周年記念特別展示
や関連イベントなどを開催します。
詳しくは「図書館開館100周年特設サイト」に
てご案内いたします。



大学公式Instagram更新中!!

大学公式Instagramでは、キャンパス内外でのさまざまなイベント、学生の活躍、学内の最新情報をお届けしています。また、学生のインタビュー、学部紹介、クラブ活動の様子なども掲載中です。みなさまの日常に役立つ情報や楽しいコンテンツを発信していきますので、ぜひフォローして最新の情報をチェックしてください!



@RISSHO_UNIVERSITY

学園新聞Web版・公式サイト・SNSはこちらから



学園新聞
Web版



立正大学マガジン

検索



公式サイト



立正大学

検索



公式Facebook



公式X
(旧Twitter)



モラリすX
(旧Twitter)

セミナーやイベント情報、クラブ活動の様子などをSNSで発信中!
ぜひフォローしてチェックしてみてください。

本紙へのご感想をお待ちしております!

立正大学学園新聞アンケート

立正大学学園新聞編集委員会では、読者のみなさんの声をもとに、よりよい紙面づくりをしていきたいと考えております。今後の紙面づくりの参考にさせていただきますので、アンケートにご協力ください。



アンケート